



博士課程教育リーディングプログラム
免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム

NEWS LETTER



number 9
2018 spring



LGS
LEADING GRADUATE SCHOOL
AT CHIBA UNIVERSITY

4th LGS Winter Camp

LGS4期生 神崎 洋彰

2018年1月27、28日に「4th LGS Winter Camp」を一宮シーサイドオーツカで開催致しました。Winter Campは医療に関係したテーマを設定し、そのテーマに対して学生が新規ビジネスモデルを考案、発表を行うイベントで、今回が4回目の開催となりました。

今回はLGS学生でありながら在学中に個人ゲノム解析を提供するベンチャーを起業された株式会社ゲノムクリニック代表取締役である曾根原弘樹先生から、起業前の経緯や起業後の困難についてご講演いただき、学生は起業について具体的に知ることが出来ました。

また曾根原先生からのご紹介により、遠隔医療相談サービスである小児科オンラインを軸に医療分野のベンチャーで活躍されている株式会社Kids Public代表取締役である橋本直也先生をお招きし、現在の小児医療の問題点、それに基づくビジネスモデル構築などについて貴重なご講演を賜ることが出来ました。

学生らは3つのグループに分かれ、「現代の医療課題に挑む」というテーマのもと、多くの議論を重ねてきたビジネスプランを、まず1日目にパワーポイントで発表し、学生、指導教員、招聘講師の方々とディスカッションを行いました。いずれのグループの発表でも活発な意見交換が行われました。その後、各グループはそこで得られた課題・問題点に対し、グループディスカッションを行い、より良いプランとなるようグループ全ての学生が自分自身の意見を述べ、活発な議論が交わされました。

2日目はその改善されたプランをもとにパワーポイントで再度発表しました。いずれのグループも1日目と比較して、より練り上げられたプランを発表しましたが、今回はウェアラブルバイタルサインモニターを発表した“SIGNIS”が優勝しました。

今回のWinter Campでは、ビジネスモデルの考案、発表、議論を行うことを通じて、起業することについてはもとより、自分自身の今後の未来像等の多岐にわたる意見を交わすことが出来ました。これらの交流はLGSの更なる飛躍と発展に結びつくものであり、今後もこの活動を続けていきたいと考えています。



お問い合わせ先



千葉大学医学部リーディング大学院事務室 TEL.043-226-2817
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 lgs-jimu@chiba-u.jp

News Letter
number 9

■発行日/2018年3月

海外研修 (La Jolla, San Diego, USA)

LGS4期生 古矢 裕樹

本研修においてはボストン、サンフランシスコ・ベイエリアに次いで米国第3位の大規模なイノベーションクラスターを形成しているSan Diegoを訪れました。中でもSan Diegoはヘルスサイエンス企業が密集しており、各企業と現地大学であるUniversity of California, San DiegoやUniversity of San Diegoとの繋がりが強く、米国におけるヘルスケア企業のあり方を学ぶには最適の場所です。今回私達はKyowa Kirin Pharmaceutical Research, Tanabe Research Laboratories, Ajinomoto Althea, BioLegendの4社を3日間にかけて見学させて頂きました。各々の企業においては各社の歴史や製品に関するレクチャーを通じて各社の企業戦略を学んだ他、各企業の豊富な研究設備と細分化された組織の見学を通じて国内施設との環境の違いを体感することが出来ました。

各企業における製品レクチャーは自分の研究テーマに関わるものから未知の領域まで多岐に渡っており、現在使用しているツールに対する理解を深めるだけでなく、今後の研究活動の幅を広げ得ると感じました。また、各企業が免疫学のどの分野をターゲットに据え、どこまでを企業内で管理、外部に受託するかなどの創業経営の形を知る過去にない貴重な機会でもありました。過去には自分が将来創業・経営について関わることは全く想像をしておりませんでした。本実習を通じて自分の将来の選択肢の一つとして認識を深めることが出来た大変有意義な機会となりました。



Ajinomoto Althea前にて

海外研修 (ジュネーブ国際機関)

LGS5期生 南塚 拓也

2017年9月25日から27日までの3日間、世界保健機関 (World Health Organization: WHO) などの国際機関研修に参加しました。研修場所はスイスの都市ジュネーブです。

1日目はWHOで、国連で働くこと、WHOの仕事、WHOの食品安全対策、科学研究とWHOの役割、ポリオ撲滅、インターン生活についての話をうかがいました。

2日目はGlobal fund、国際赤十字・赤新月社連盟 (International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies: IFRC)、国際労働機関 (International Labour Organization: ILO) の順に各機関を訪問し、それぞれの果たす役割について話をうかがいました。各機関を訪問した際は、学生より千葉大学の紹介を行いました。最後に在ジュネーブ日本政府代表部を訪れ、国連職員になる方法について話をお聞きし、国連・国際機関日本人職員の皆様と交流しました。

3日目は国際連合ジュネーブ事務局 (United Nations Office at Geneva: UNOG) の見学ツアーに参加した後に、WHOへ移動し研修についてディスカッションを行いました。

私は現在、生活習慣病に関する研究を行っています。western foodが浸透し野菜を食べる習慣や運動習慣がないために、途上国では20年後には感染症よりも生活習慣病の方が悪化する可能性があるという話も印象的でした。国際機関で働いている方々のように、専門性や語学力に加えて、強い信念を持ちながら、自分の選択した道へ進んでいきたいと感じました。



世界保健機関 (WHO) 前にて

リーディングフォーラムでの発表

LGS2期生 曾根原 弘樹

名古屋大学主催で平成29年10月20、21日に開催された博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2017に参加し、ポスター発表を行った。発表では個人ゲノム解析の医療実装化を目指す千葉大学発ベンチャーの取り組みについて紹介し、これまで研究として取り組んできたこと、また今後の技術的・社会的諸課題について紹介した。ポスター発表の会場には全国から集まったリーディングプログラムに所属する学生や教員が多く足を運び、様々な意見や助言を得ることができた。特に他大学ベンチャーの方々との意見交換を行うことができた。一部の大学では既に学内から100社を超えるベンチャーが立ち上がっており、支援の仕組みを含めて良いエコシステムが形成されていることが明らかとなった。まだ発展途上である千葉大での今後のベンチャー育成について有用な知見を得ることができた。例えば、大学がファンドを創設しシード期の学内発ベンチャーに出資を行うなど、より具体的かつ先進的な取り組みが期待される。

今回のリーディングフォーラムのテーマは「未来を創る博士人材。未来に受け継ぐ博士課程教育」であった。その点で多くの発表やワークショップにおいて、社会としてどう博士を活かし博士課程教育を創っていくかという「博士人材の出口戦略」についての活発な議論が交わされていた。急激な経済成長は期待できず、社会保障費の増大も確実視されている日本において博士のあり方も変化していかなければならない点は共通認識として感じられた。社会実装化が可能なテーマについては補助金からの独立を目指し、より基礎的なテーマに科学研究費を割り当てる持続可能な戦略が博士課程教育にも求められているのではないだろうか。



英語による学位審査

LGS2期生 中川 誠太郎

LGSに所属する学生は学位審査の全てが英語で行われる。4年間の英語のカリキュラムや海外での研修を通じて、国際的に活躍できる人材の育成を掲げるこのプログラムの集大成の意味も込めての学位審査であった。日本人の審査員の先生方3名と、外国人審査員として現在はアメリカのサン・ディエゴでバイオテックカンパニーのVice-President (CSO)を務め、本学で探索的先端治療学の客員教授も兼任されているMark Bix氏に審査をお願いした。

LGSの学位審査では、学位の授与に値する研究を遂行することができたのか、十分に当該研究領域についての知識を獲得できたかという一般的な博士課程で要求される能力だけでなく、それらを英語できちんと説明し、また自らが導いた科学的な理論を批判に耐えられるよう論理立てて相手に納得させる能力が必要とされる。アメリカでは学位審査のことをThe Oral Defense of a Dissertationと呼び、自分の論理を様々な角度からの質問、批判から守る審査であると捉えられている。Mark Bix氏はアメリカで学位を取得し、同国の大学で長い間教鞭を取っていた経歴があるため、僕の学位審査ではまさにアメリカ式の微に入り細に入る質問と意見、議論が約40分にわたって展開された。4年間向き合い試行錯誤を繰り返した研究の内容と、LGSの様々なカリキュラムで研鑽を積んだ英語力とサイエンスの系統的な思考を試される舞台であるため、自分の持てる知識と能力を総動員して学位審査に臨み、無事に審査を終えることができた。

大学院生としての生活の中でこれだけ自分の能力と仕事がフェアに審査される機会はないように思う。審査する側とされる側がお互い本気でぶつかり合い議論した上で得られる知的な思考や喜びは、何者にも代え難い経験となったのと同時に、ようやく社会に対して新しい価値を問うことができる出発点に立つことができたのだと身の引き締まる思いであった。



リーディングプログラムを 修了するにあたって 一次世代のリーダーを目指して



駒井 絵里

LGS 2nd Year Member

リーディングプログラムを通じて、普段自分と係わり
のない様々な分野に触れることができ、また全く違う
領域を研究している学生同士との交流を介し新たな視
点を得、お互いに切磋琢磨しあえたと思います。また
海外研修や英語での学位審査などの機会は重要な経験
となりました。今後もこの経験を更に伸ばしていける
よう、精進していきたいと思います。



井出 真太郎

LGS 2nd Year Member

LGSプログラムを通して、私は医学薬学領域の知識だ
けでなく、LGS学生や多分野の研究者との交流を得る
ことが出来ました。特にこの交流は将来の飛躍と発展
において重要であると思います。この機会を与えて頂
いたLGSプログラムに感謝します。



曾根原 弘樹

LGS 2nd Year Member

博士課程教育リーディングプログラムから多くの経験
を得ることができました。特に欧州・米国に研修に行
かせていただいたこと、国内外の最先端の医師・研究
者・起業家の方々と交流をさせていただいたことは私
にとって大きな刺激となりました。その結果、博士課
程研究が進み、更には個人ゲノム解析の医療実装化を
目指す大学発ベンチャーの創業へと繋がりました。今後も人々の健康に寄与する
ことを目指して精進してまいります。



山崎 璃沙

LGS 2nd Year Member

プログラムでの研修、学内外の博士学生との交流など
はとても貴重な経験でした。リーディングの方々はとて
も優秀でポジティブな方ばかりで刺激的でした。英語で
の博士論文発表は大変でしたが、今は自信につながった
ように思います。プログラムでお世話になった方々、研
究室の先生方には本当に感謝しています。現在は学部
からの夢を叶えてフランス
で研究をしています。新しい分野で日々失敗と学びの
繰り返しですが、素敵な仲間恵まれて非常に充実し
ています（写真は研究室の小グループです）。



金井 哲也

LGS 2nd Year Member

リーディングプログラムに参加することで、起業家精
神やグローバルに活躍するための英語力を学び、実践
する機会に恵まれました。この実践という課題があっ
てこそ、様々なスキルを習得できるようになったと考
えています。習得したスキルを研究や診療に役立てる
ことは勿論、社会問題の解決に役立てたいと思います。
そのために今後も日々研鑽を積み、グローバルリーダーとして活躍をしていき
たいと思います。



策 愛子

LGS 2nd Year Member

リーディングプログラムの4年間ではサンディエゴでの海外研修をはじめとした多くのプログラムにより他分野への興味や見識を深めることができ、多くの人と知り合う機会にも恵まれ、自分の世界を広げることができたと思います。この4年間で得られた経験をもとにさらに可能性を高められるよう精進したいと思います。



Eishika Dissanayake

LGS 2nd Year Member

I will continue working towards my goal of contributing to the understanding of childhood allergic diseases. The LGS program equipped me with the confidence I need to take the next step in my career and opened up avenues that I can explore to achieve my goal. I will use the experience that I have gained not only to contribute to better scientific knowledge, but also to guide younger generations of students in finding their way to a future in science through research and entrepreneurship.



中川 誠太郎

LGS 2nd Year Member

LGSの4年間は、このプログラムでしか経験できないことを学ぶことができた4年間でした。医学に限らず、社会的、人文的な知見を広げることができ、英語を駆使して世界と渡り合っていくために必要な技術を体得することができました。LGSで培った繋がりが、将来お互いにとって大きな財産になることを願い、今後も研鑽を重ねていきたいと思っています。4年間サポートしていただいた全てのオーナー、事務の方々、そしてLGSメンバーに感謝いたします。



三田 恭義

LGS 2nd Year Member

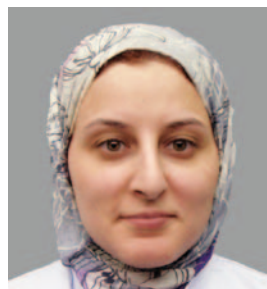
本プログラムの4年間で得られた多くの出会いは、私自身の視野を大きく広げてくれた。現在解決が求められる多くの課題に触れ、またそれに対し自分達にできることが想像以上にたくさんあることを知ることができた。「次世代のリーダー」への道のりはこの4年間で完結するものではなく、むしろここからはじまる。ここで得たものを忘れることなく、むしろ仲間たちとともにさらに広げていながら、リーダーとして新たな価値の創造と課題解決を目指していきたい。



李 恵子

LGS 2nd Year Member

リーディングプログラムはたくさんの人脈やチャンスを与えてくれました。その中で、与えられたものに満足せず、貪欲にさらなるチャンスを自分でつかみに行く重要性や勝ち取るノーハウを学びました。率先力、統率力、決断力、聞く力、第三者の視点を持つこと、そして、ここでしか出会えなかったかけがえのない仲間、リーディングプログラムで得られたこれらが、今後の私の糧となりました。この貴重な経験に感謝致します。



Ola Mohammed Kamel RIZQ

LGS 3rd Year Member

As a Leading Graduate School student, I had the opportunity to train at different medical and pharmaceutical labs, attend lectures by distinguished professors from around the world and have discussions with elite students. One of the most important lessons I learned was that collaboration with colleagues from diverse scientific fields is at the heart of any research breakthrough. The knowledge I gained will help me in the next chapter of my professional life, and the wonderful friends I made will be my future collaborators.